

■ 計画における学校規模の考え方

現行の県立高等学校活性化計画の考え方

1学年3学級以上8学級以下を適正規模とし、2学級以下の高等学校は原則として分校とする。



次期計画の骨子案の考え方

地方創生や地域の担い手育成の観点から、1学年2学級の高等学校については原則として分校とするが、地域の状況、学校・学科の特色、生徒の通学の実態等から、特に存続が必要と考えられる学校については、本校としての存続を検討。

■ 小規模校の存続に関する教育改革推進会議、県議会の主な意見

(小規模校の存続に積極的な意見)

- ・子どもたち一人ひとりの自己実現や教育機会の保障が大事である。生まれた場所によって、学校の実績が著しく異なることのないようにするべきである。
- ・高校がなくなると過疎化が進むので対策が必要である。
- ・2学級でいいのか、北海道や青森県のように1学級でも残すのかももう少し検討する必要がある。
- ・1学級本校を認めるべきではないか。

(小規模校の存続に慎重な意見)

- ・教育の質を確保する観点からは、小規模校全てを残して良いということではなく、地域の特性と結びつけて考える必要がある。
- ・2学級の学校を原則として分校とするという表現では、すべての学校が残ることを保証しているように感じる。
- ・小規模校を維持するには一定の予算がいる。小規模校を維持する予算を他の教育課題の解決に振り向けるという選択肢もある。

伊賀地域協議会

- ・あけぼの学園高校(1学年2学級・総合学科)等で取り組まれている学校と地域が連携した活動は大切である。規模だけで学校の存続を考えるのではなく、地域とのつながりという面も十分に考慮すべきである。

伊勢志摩地域協議会

- ・高校にとって一定の規模が必要であることは大切だが、当地域には、経済状況が厳しい世帯が一定数存在し、地元には高校があることで教育の機会を得ている生徒がいることも忘れてはならない。
- ・地域と連携して、継続した取組をしていくことが大切であり、地域防災や減災について、この地域の高校間で連携した取組ができるのではないかと。
- ・小規模校であっても、部活動の際に、バス等を利用して生徒を集めることで、豊かな教育活動を保障することが可能である。
- ・進学コースを設けたり、ICT機器の活用により密度の高い教育につなげたりするなど、様々な活性化の取組がある。
- ・小規模校の機動力を生かして、文化祭を公開したり、地域の行事と同時開催したりすることで、学校をもっと開かれたものとするべきだ。
- ・高い教育水準など、魅力的な教育の場があれば、結果的に他地域から人を呼び込むことにつながると思う。
- ・地域の小規模な高校の良さを伝えるためには、水産高校(1学年2学級)のように高校生が直接地域に発信する取組が有効である。
- ・将来、地域で活躍する人材を育てるにあたっては、まず、保護者の意識を改革する取組が必要ではないかと。

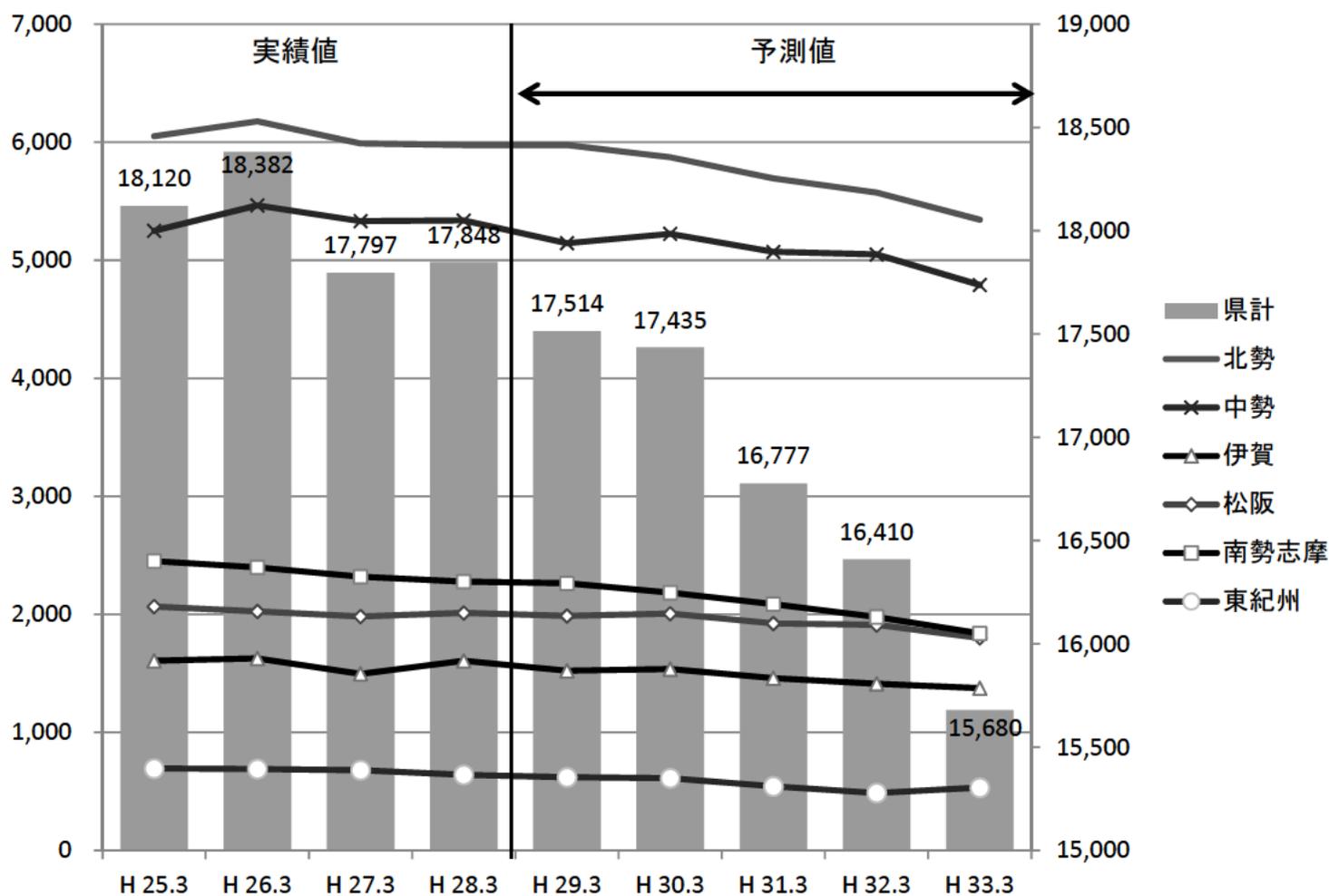
紀南地域協議会

- ・木本高校及び紀南高校の両校を存続させていくべきである。両校(木本高校1学年5学級、紀南高校1学年3学級)を存続させ、地域外への進学者を引き留めるには、教育活動の質的向上が大切である。
- ・地域が両校に対してどのように支援・協力していけるのか、両校とどのような連携が図れるのかについて議論していく必要がある。

■ 本県の現状

- 本県の中学校卒業生数は、平成28年3月から平成33年3月までに、約2,200人減少する見込み。これは48学級程度の減少に相当する。
- 特に南部は減少の割合が大きく、15%程度の生徒減が見込まれる。

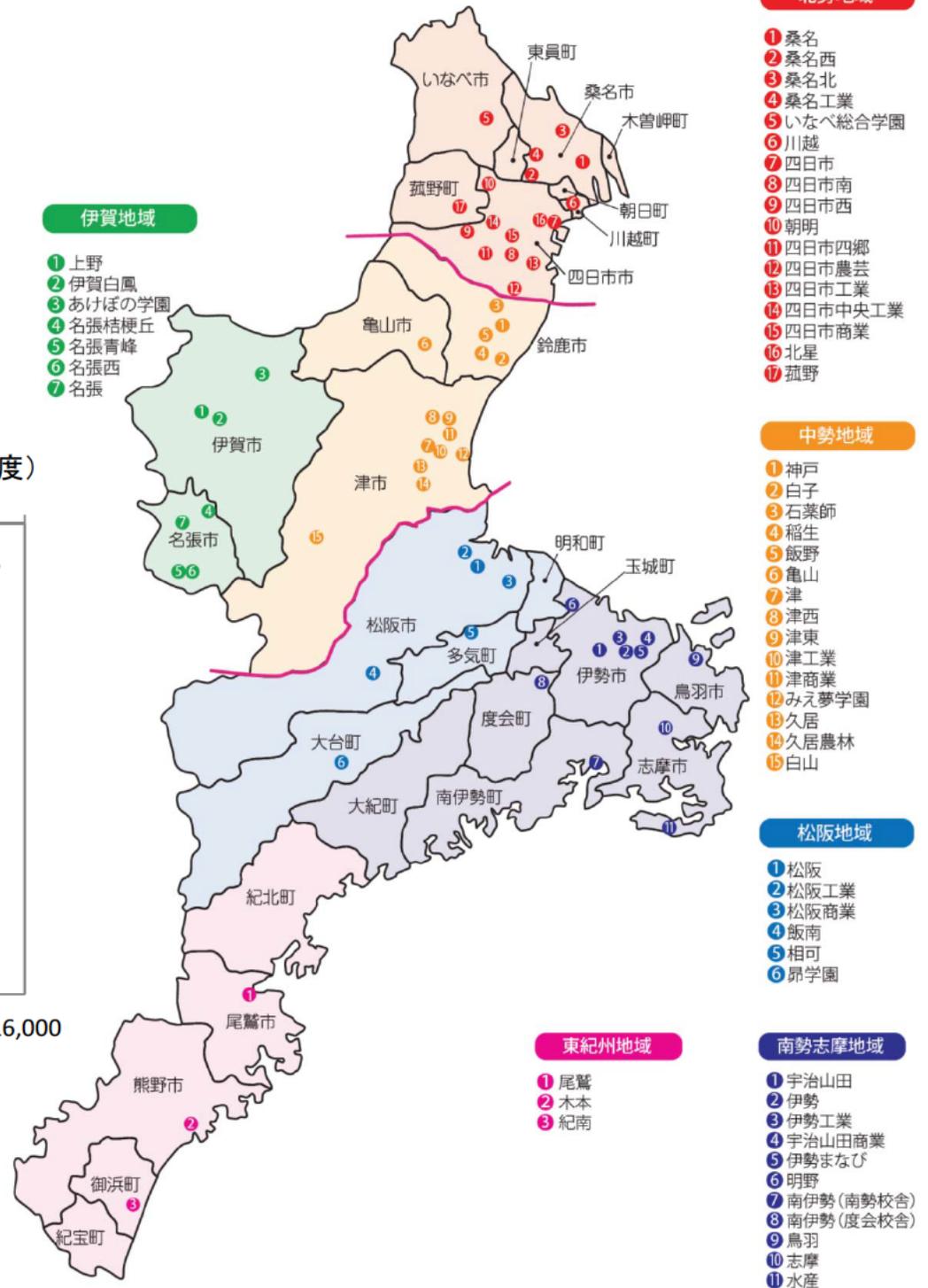
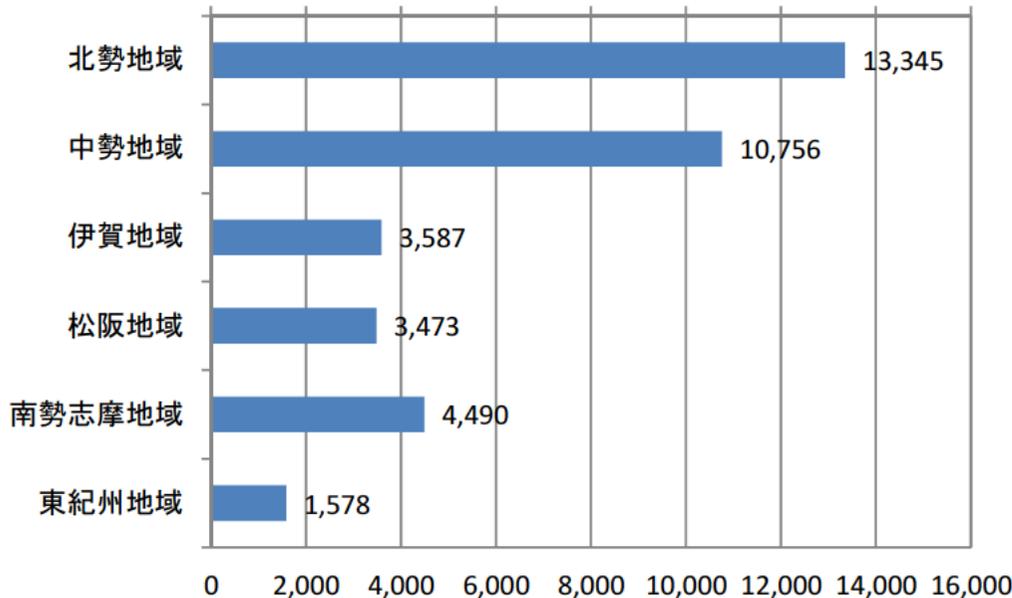
本県中学校卒業生数の推移と今後の予測



■ 本県の地理的な状況

- 本県は地理的に南北に長く、生徒数は県北中部に多い状況。
- 県南部は人口減少、過疎化が進んでおり、高等学校の数も少ない。
- 南部の高校では通学時間が2時間以上の生徒も存在する。

本県高校(全日制)の地域別生徒数(平成28年度)



■ 本県高校の募集定員と学級数・入学者数

※平成28年度第1学年の数値

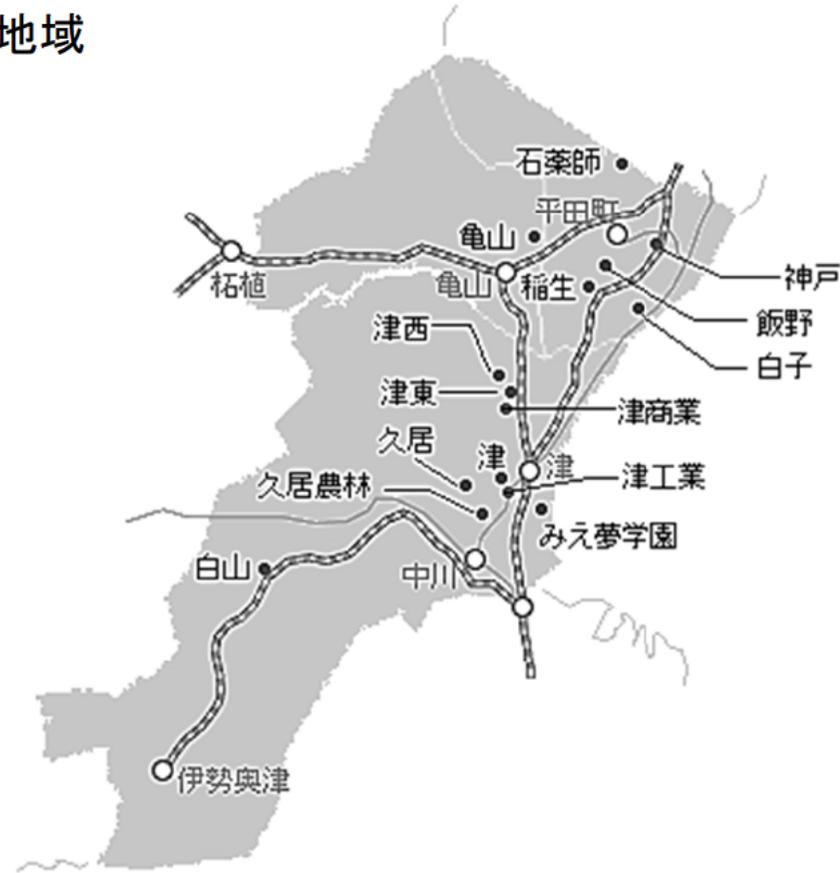
北勢地域



学校名	学級数	募集定員	入学者数	欠員
桑名	9	360	360	
桑名西	8	320	321	
桑名北	6	240	237	3
桑名工業	4	160	160	
いなべ総合学園	8	320	320	
四日市	9	360	360	
四日市南	8	320	320	
四日市西	8	320	320	
朝明	6	240	240	
四日市四郷	6	240	240	
四日市工業	8	320	320	
四日市中央工業	6	240	240	
四日市商業	7	280	280	
四日市農芸	6	240	240	
菰野	4	160	161	
川越	8	320	320	

地域計	111	4,440	4,439	3
-----	-----	-------	-------	---

中勢地域



学校名	学級数	募集定員	入学者数	欠員
神戸	8	320	320	
飯野	4	160	159	1
白子	7	280	277	3
石薬師	5	200	200	
稲生	6	240	240	
亀山	7	280	280	
津	9	360	360	
津西	9	360	360	
津商業	7	280	281	
津東	8	320	323	
津工業	6	240	241	
久居	6	240	240	
久居農林	6	240	241	
白山	3	120	105	15
地域計	91	3,640	3,627	19

伊賀地域



学校名	学級数	募集定員	入学者数	欠員
上野	8	320	324	
あけぼの学園	2	80	80	
伊賀白鳳	7	280	280	
名張	6	240	242	
名張青峰	8	320	306	14

地域計	31	1,240	1,232	14
-----	----	-------	-------	----





松阪	8	320	321	
松阪工業	6	240	240	
松阪商業	5	200	200	
飯南	2	80	80	
相可	6	240	242	
昴学園	2	80	80	

地域計	29	1,160	1,163	0
-----	----	-------	-------	---



南勢志摩地域

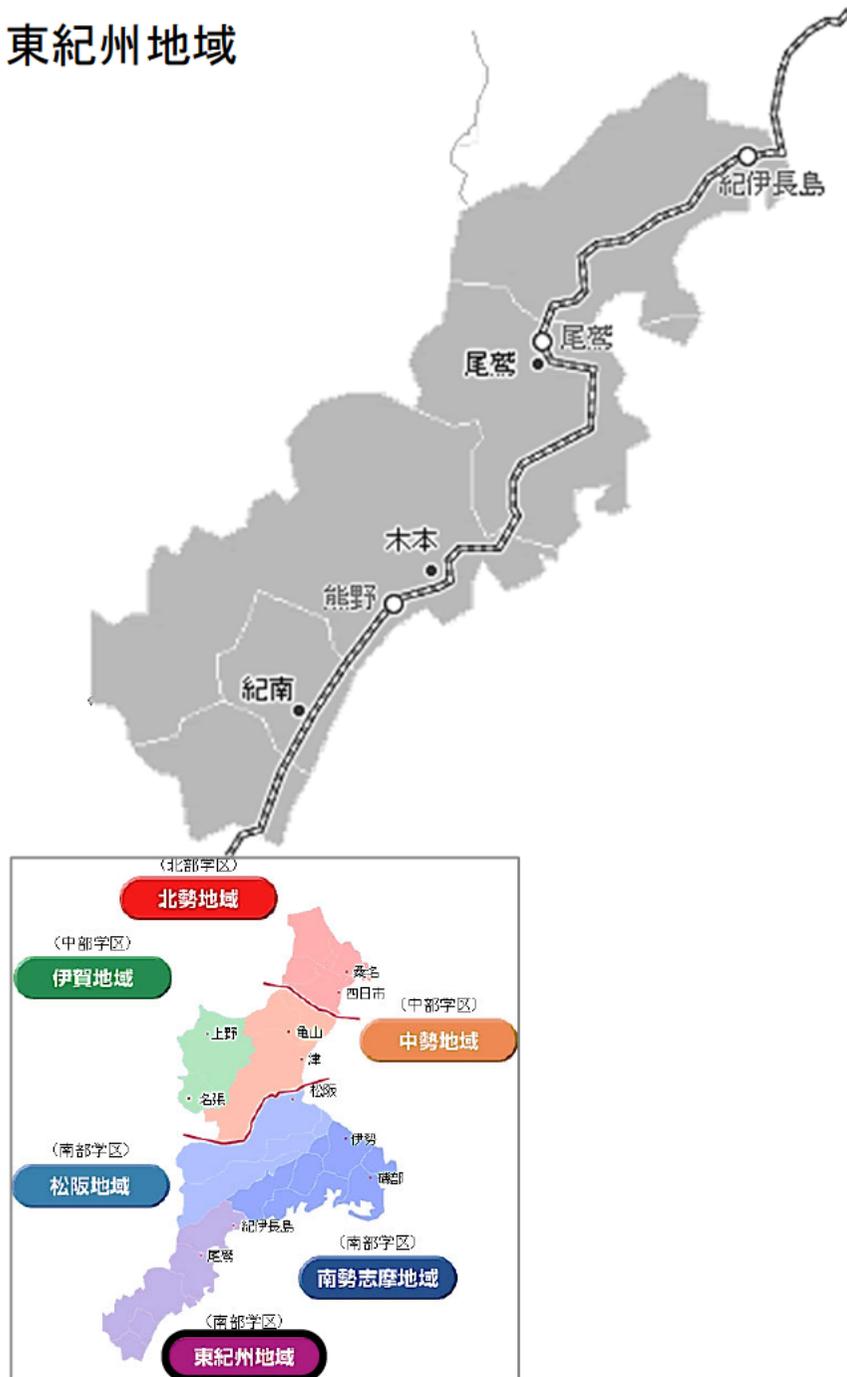


学校名	学級数	募集定員	入学者数	欠員
明野	5	200	200	
宇治山田	6	240	240	
伊勢	8	320	324	
宇治山田商業	5	200	200	
伊勢工業	5	200	200	
南伊勢	3	120	78	42
鳥羽	2	80	73	7
志摩	3	120	104	16
水産	2	80	71	9



地域計	39	1,560	1,490	74
-----	----	-------	-------	----

東紀州地域



学校名	学級数	募集定員	入学者数	欠員
尾鷲	6	240	194	46
木本	5	200	200	0
紀南	3	120	111	9

地域計	14	560	505	55
-----	----	-----	-----	----

1学年3学級以下の県立高等学校の現況

学校名 【学科】	H28 【定員計】 入学者 (欠員)	平成27年度卒業者の進路状況							学校の特徴や特色ある教育活動等
		卒業者	四年制 大学 (国公立)	短期 大学等	専修 学校	各種 学校	就職	その他	
白山 【普通】 【情報コミュニケーション】	[120] 105 (15)	95	1 (0)	8	15	0	63	8	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ・スクールの導入(平成25年度～) ○早期から進路を意識させるため、地域の教育力を活用した体験重視の系統的なキャリア教育の推進 1年生:進路ガイダンス、大学・専門学校見学会等 2年生:地元企業等の協力によるインターンシップ(夏季休業中)、体験型進路ガイダンス等 3年生:地元企業等の協力によるインターンシップ(通年)、進路ガイダンス、夏季進路セミナー、 模擬面接等 ○基礎学力向上に向けたプロジェクトチームを設置し、学力向上策等の検討・実施 ○進路希望や興味・関心に応じた学習ができるよう、少人数授業、多くの選択講座を実施 ○情報、商業、福祉、語学等の資格・検定の取得に向けた取組 ○地域の活動に積極的に参加・協力
あけぼの 学園 【総合】	[80] 80 (0)	75	4 (0)	2	11	0	58	0	<ul style="list-style-type: none"> ○設置系列(製菓調理、美容服飾、健康福祉、情報教養) ○基礎学力の向上や資格の取得に注力 ○進学に向けた取組(校内校外模試の実施、進学補習等) ○就職に向けた取組(企業見学、職場体験実習、各種資格試験、就職試験対策講座、面接指導、作文指導等) ○「美容」を学べる県内唯一の高校 <ul style="list-style-type: none"> ・校内に開店している高校生美容室での現場教育の充実 ・学んだ技術を確かめるため、美容競技の様々な全国大会に出場 ・地域企業と連携した商品企画から販売に至るまでの体験学習(シャンプー、オイルエッセンス) ・地域の中学校への出前授業
飯南 【総合】	[80] 80 (0)	67	8 (0)	1	5	1	50	2	<ul style="list-style-type: none"> ○設置系列(郷土環境、介護福祉、コンピュータ、総合進学) ○2学級定員を3学級に編成した少人数教育の実施 ○基礎学力を向上させる継続的・系統的な取組(漢字検定、基礎学力養成学習等) ○松阪立飯南中学校・飯南中学校との連携型中高一貫教育による郷土教育やキャリア教育の推進 ○地域の小中学校と連携し、目指す子どもの姿を共有した地域ぐるみのキャリア教育の推進 ○地元の専門家を特別講師とした授業の実施 ○三重大学、皇學館大学、四日市大学、県立看護大学、中京大学と連携し、年間を通じた大学教授によるリレー形式の授業(高大連携授業)の実施 ○3年間の学びの集大成をプレゼンテーションする「いいなんゼミ」発表会

学校名 【学科】	H28 〔定員計〕 入学者 (欠員)	平成27年度卒業者の進路状況							学校の特徴や特色ある教育活動等
		卒業者	四年制 大学 (国公立)	短期 大学等	専修 学校	各種 学校	就職	その他	
昴学園 【総合】	[80] 80 (0)	45	5 (0)	2	13	1	23	1	<ul style="list-style-type: none"> ○設置系列(国際交流、環境技術、美術工芸、生活福祉、総合スポーツ) ○全国で唯一の全寮制総合学科高校 ○韓国養正高校との相互交流(短期交換留学)、短期海外語学研修の実施 ○大台町から派遣の「地域おこし協力隊」が学校に常駐し、大台町と昴学園高校との共同活動をコーディネート ○地域について学ぶ学習、地域の産物や資源のビジネス化に取り組む学習(中小企業経営者や職人を講師とした科目「宮川(大台学)」、「三重学」、「地域創生学」等) ○大台町や地域、企業等と連携した活動(地域の課題解決にチームで取り組む「まちかつ」、木材市場での競り実習、福祉施設や保育所での実習、森林体験学習 地域でのボランティア活動等) ○保育所・小中学校での出前授業等(外国語活動、竹とんぼ作り、ちぎり絵作り、車イス体験、アルティメット体験)
南伊勢 (度会校舎) 【普通】	[80] 60 (20)	56	3 (0)	7	8	0	35	3	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着・向上に向けた系統的な取組(定期的な「基礎学力診断テスト」、学び直し学習システムの実施等) ○地域での積極的なボランティア活動(福祉施設や社会福祉協議会等での交流等) ○郷土の史跡めぐり等、地域に誇りを持てる取組の推進 ○度会町と連携した公務員への意識高揚を図る取組(度会町役場でのインターンシップ、選挙ボランティア、度会町からの支援による専門学校講師による講義等) ○度会町からの支援(進学補習のための外部講師派遣、タブレットPCの整備)を活用した課外補習・自習体制の充実 ○進学・就職後2年目の卒業生を講師に招いての体験談講演
南伊勢 (南勢校舎) 【普通】	[40] 18 (22)	22	1 (0)	0	3	0	16	2	<ul style="list-style-type: none"> ○南伊勢町立南勢中学校との連携型中高一貫教育による系統的なキャリア教育の推進 ○国のコミュニティ・スクール導入促進事業を受けた研究(平成29年度からコミュニティ・スクール導入予定) ○基礎学力の定着・向上に向けた系統的な取組(基礎学力向上ウィークの設定、学び直し学習システムの実施等) ○南伊勢町から派遣の塾等講師や就職支援員と教員が連携した進学補習・就職支援 ○短期留学制度の活用、国内の地域活性化の取組との交流によるグローバル人材の育成 ○南伊勢町、南伊勢町商工会、三重大学等と連携した防災教育の推進(生徒考案の非常持出し袋の普及、避難経路等防災マップの作成) ○SBP(地域ビジネス創出プロジェクト)を推進し、全国各地域の高校とも交流 ○吉本興業等と連携した地域劇団公演による地域活性化

学校名 【学科】	H28 〔定員計〕 入学者 (欠員)	平成27年度卒業者の進路状況							学校の特徴や特色ある教育活動等
		卒業者	四年制 大学 (国公立)	短期 大学等	専修 学校	各種 学校	就職	その他	
鳥羽 【総合】	〔80〕 73 (7)	69	5 (0)	2	16	1	41	4	<ul style="list-style-type: none"> ○設置系列(観光ビジネス、スポーツ健康、総合福祉、文理進学) ○基礎学力の定着・向上に向けた取組 (学び直し教材の活用、国・英・数の授業でのTTの導入、基礎学力・進学補習、定期的な「基礎学力診断テスト」等) ○就業意欲の向上に向けた企業見学や就業体験、卒業生等との交流 ○進学意識の高揚に向け、高大連携授業や出前授業等を活用した多様な学びの場の設定 ○体験を重視した「鳥羽学」、「地域研究」、「観光と町づくり」、「マリンスポーツ」等の科目設置 ○鳥羽市、幼稚園・小中学校、地元企業等と連携した域活性化や防災の活動の推進 ○観光教育の視点での地域学習の推進 (「全国高等学校観光選手権大会」への参加、県外の高校との定期的な観光教育学習交流)
志摩 【普通】 ①国際 ②普通	〔120〕 104 (16)	108	14 (0)	5	41	0	45	3	<ul style="list-style-type: none"> ○「学び直し」を軸とする基礎学力の向上の取組 ○進学希望の生徒に対する個別指導や放課後・長期休業中を利用した進学補講の実施 ○生徒の就業意欲向上に向けた事業所訪問や就労体験、面接指導等の実施 ○普通科高校ではあるが、幅広い資格取得に向けた取組 (簿記検定、情報処理検定、危険物取扱者、フォークリフト運転技能者等) ○地域のイベントへの積極的な参加・協力
水産 【海洋・機関】 【水産資源】	〔80〕 71 (9)	79	0 (0)	12	16	0	45	6	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着・向上に向けた取組(独自教材による「朝のトレーニング」の実施、長期休業中の補講等) ○就業意欲の向上に向けた取組(企業での乗船体験等インターンシップ、企業視察研修) ○漁業の担い手育成に向け、三重県漁業協同組合連合会や志摩市水産課、三重県と連携 ○大型実習船「しろちどり」での長期航海実習や、小型実習船「はまゆう」での漁業生産実習 ○海洋環境調査や魚の標識放流など水産資源についての貢献活動 ○ウインドサーフィンやダイビングなどのマリンスポーツについての学習 ○海技士のほか、小型船舶操縦士、ボイラー技士、電気工事士、危険物取扱者等の資格取得に向けた補習 ○スイコーキッズ、小学生との交流、防災グッズ(サバCAN)の製造・配布、水高フェア等、地域と連携した取組の推進 ○企業と連携した商品開発やイベントの実施
紀南 【普通】	〔120〕 111 (9)	106	8 (0)	10	26	0	56	6	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ・スクールの導入(平成19年度～ 県内県立高校初) ○生徒の基礎学力の向上と自信をつけさせるための取組 (ちりつも学習(SHRでの英語や数学等のプリント学習)の実施、学校設定科目「基礎振り返りⅠ・Ⅱ」の開講、全国的な学力テストによる生徒の学力把握・分析、学級満足度調査の実施と分析・共有) ○1年次から進路意識を高めるための講話やガイダンスの充実 ○事前指導・事後指導の充実も含めた年間通じてのインターンシップの実施(毎週金曜日終日) ○学校生活や働くことを話題とした1年次生と地域の方との対話集会の実施 ○地域や小・中学校との連携を推進(学校設定科目「東紀州学」の実施、小・中・高合同の海岸清掃作業、小・中学校の学習活動・部活動等への教職員の派遣、授業参観を通じた教員の相互交流、聴講生制度等)

※ 各高校の設置学科等は、平成28年度現在。

※ 進路状況の「各種学校」は大学等へ進学のための「予備校」。「その他」には「公共職業能力開発施設等入学者」、「一時的な仕事に就いた者」、「未定者」も含む。

■ 全国の全日制第1学年学級数別の学級規模の状況（都道府県立の本校のみ）

14

都道府県	平成28年度の学校規模(学級数)											全学校数	全クラス数	1校平均
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11～			
北海道	43	34	14	36	14	21	14	22	1			199	776	3.90
青森	2	11	2	12	7	12	6					52	227	4.37
岩手	4	13	10	6	14	11	5					63	255	4.05
宮城		5	11	6	10	12	16	4		1		65	343	5.28
秋田		6	8	7	8	15	1					45	201	4.47
山形	1	3	10	6	14	2	4		1			41	180	4.39
福島		22	6	9	12	13	13	5				80	367	4.59
茨城		1	10	19	17	22	14	10				93	503	5.41
栃木				16	22	12	6	3				59	312	5.29
群馬		9	7	12	10	10	7	7				62	302	4.87
埼玉		1	3	7	14	36	19	23	26	4	1	134	936	6.99
千葉		1	8	18	11	21	11	29	21		1	121	796	6.58
東京	3	2	1	11	27	57	28	44	5			178	1,124	6.31
神奈川				5	6	28	46	27	19	10		141	1,027	7.28
新潟	1	12	8	20	11	7	10	7	3	1		80	389	4.86
富山			7	11	6	6	6	1				37	181	4.89
石川		7	3	6	9	2	3	3	3	2		38	196	5.16
福井				7	8	2	2	3	4			26	154	5.92
山梨			3	2	5	8	6	3				27	156	5.78
長野		4	14	12	11	18	12	5				76	385	5.07
岐阜		1	7	11	8	11	9	7	4	3		61	358	5.87
静岡	1	2	4	9	15	24	12	11	5	2		85	509	5.99
愛知		3	4	7	12	32	22	29	30	7		146	1,024	7.01
三重	1	5	3	3	6	14	5	12	4			53	313	5.91
滋賀		1	7	5	3	13	5	5	2	1		44	260	5.91
京都			7	1	9	7	9	6	7			46	286	6.22
大阪	1	1			6	30	29	34	19	16		135	1,018	7.54
兵庫	4	6	11	5	19	27	26	22	7	0		127	747	5.88
奈良		1	4	1	2	9	2	7	4	2		32	208	6.50
和歌山			2	5	5	7	3	5		1		29	176	6.07
鳥取		1	5	4	7		3	2				22	105	4.77
島根	1	8	7	9	2	3	3	1				34	131	3.85
岡山			1	16	8	3	8	11	4			51	305	5.98
広島	10	11	5	9	14	11	10	8				78	353	4.53
山口		5	10	20	4	4	4	2				49	208	4.24
徳島		5	1	3	6	6	3	5		1		30	163	5.43
香川			3	8	4	5	6	5				31	173	5.58
愛媛	1	10	10	8	4	3	7	4	5			52	247	4.75
高知		10	2	8	3	3	4	1				31	127	4.10
福岡			1	20	23	13	8	11	7	8	2	93	585	6.29
佐賀		2	10	7	6	8	3					36	161	4.47
長崎	4	9	9	10	4	7	8	3				54	231	4.28
熊本		2	5	5	10	7	9	1	5	4		48	287	5.98
大分		2	1	11	8	6	5	3				36	186	5.17
宮崎	1		7	7	6	8	4	1		3		37	194	5.24
鹿児島		12	16	11	3	5	2	11	1			61	272	4.46
沖縄	1	3	4	4	9	9	9	9	5	5	1	59	375	6.36
計	78	231	271	435	442	590	447	412	192	71	8	3,177	17,812	5.40

※ 網掛け部分が、適正規模範囲内

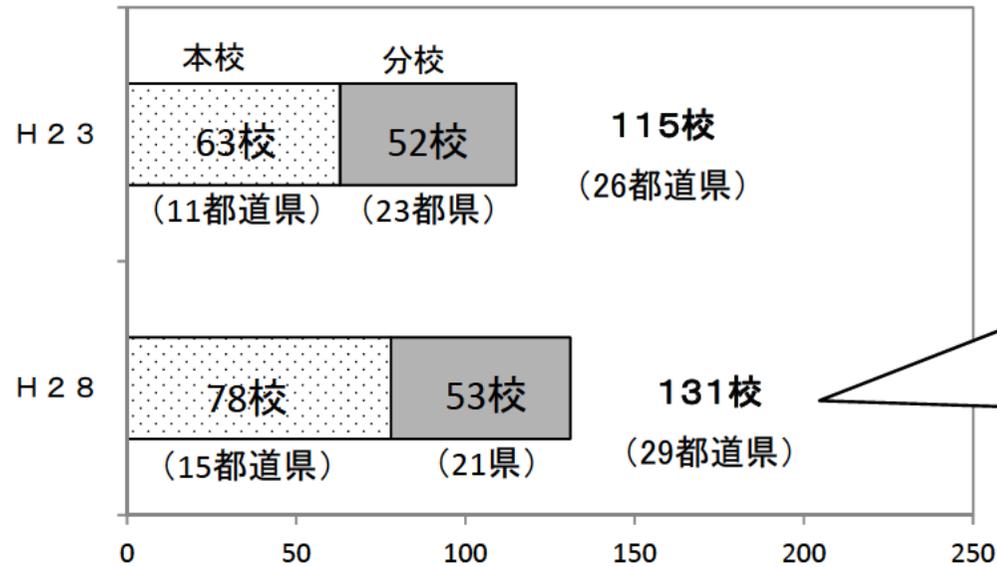
※ 9学級学校 = 桑名、四日市、津、津西

※ 2学級以下の学校 = あけぼの学園、昂学園、鯨南、鳥羽、水産の5校

※ 南伊勢高校南勢校舎は1学級の本校であるため表に記載されていないが、度会校舎(2学級・分校)と併せて3学級規模の学校とみなしている。

■ 全国の1学年1学級、2学級の状況

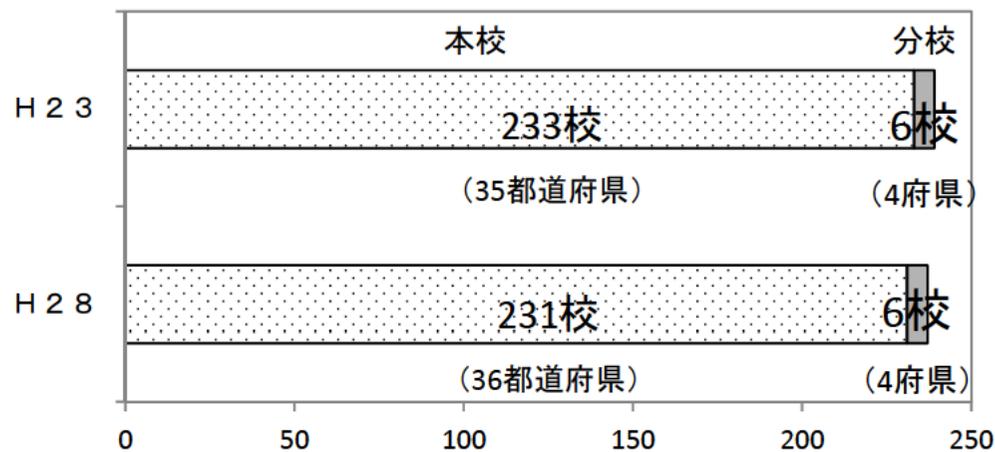
1学年1学級



1学級本校は、北海道(43校)、広島県(10校)、岩手県(4校)、兵庫県(4校)、長崎県(4校)等、15都道県に78校存在している。

1学級分校は、山口県(7校)、青森県(5校)、山形県(4校)、福島県(4校)、和歌山県(4校)、大分県(4校)等、21都道県に53校存在している。

1学年2学級



239校
(36都道府県)

237校
(37都道府県)

2学級は36都道府県に231校あるが、その多くは、本校として存在している。

■ 小規模校のメリット・デメリット

(メリット)

- ・生徒相互の人間関係が深まりやすく、学校が一体となって活動しやすい。
- ・生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。
- ・部活動などで一人ひとりが活躍する機会が増える。
- ・教職員間の意思疎通が図りやすい。

(デメリット)

- ・人間関係が固定化しやすく校内だけでは、多様な考え方に触れる機会が少なくなりやすい。
- ・教職員の人数が減るため、多様な選択科目を設置しにくい。
- ・設置できる部活動の数が少なくなる可能性がある。
- ・教員一人あたりの負担が増えやすい。

■ 他県における小規模校の活性化方策の例

1 授業の充実

- ア 遠隔授業の導入
- イ 習熟度別授業の拡充
- ウ 事業所と連携した通年のインターンシップなどの実学を重視した学びの実施

2 地域との連携

- ア 地域と連携した合同行事の実施
- イ 高校生が地域活性化策を考える取組の推進
- ウ 地域人材の活用
- エ 地域活性化の拠点として高校活用
- オ 地域に根ざした学校防災教育の展開
- カ 各学校が学校関係者、所在する市町及び市町教育委員会等で構成する「学校活性化地域協議会(仮称)」の設置
- キ コミュニティ・スクールの導入
- ク 市町立高校への移管

3 生徒に対する支援

- ア 通学費、部活動等の費用補助などの修学支援
- イ 公営塾の設置などの学習支援
- ウ スクールバスの整備などの通学等支援
- エ 奨学金支給等の大学進学等支援
- オ 就職支援

4 学校間連携

- ア 他の県立高校との交流促進
- イ 小中高連携
- ウ 連携型中高一貫教育校(小中高一貫教育)
- エ 県内大学との連携強化